



土岐市教育研究所	0572-54-1111 (内374)
TEL FAX	0572-55-6310
メールアドレス	kyoiku@city.toki.lg.jp
所報	No. 588
発行責任者	所長 板倉 義樹
発行日	令和8年 7月 10日
題字	長谷川 広和 教育長



『きらきら
みつくす
みつけ』

撮影

泉西小学校付属幼稚園

大東 裕佳 先生

「自分を見つめ、内面を磨き、生き方を考える」

土岐市教育研究所長 板倉 義樹

今年度も土岐市青少年の主張大会が開催され、小学生、中学生、高校生合わせて14名の代表による素晴らしい発表がありました。生活の中にある経験を通して、自分自身を見つめ、家族や社会に目を向け、自分の考えをさらに明確にし、自分の夢や目標、そして自分が大切にしたい生き方について考えられていました。

小学生は小学生らしい気付きから、問題意識をもって考えを伝えていました。「落ちているゴミと生態系への影響。町をきれいにしたい。」「都市化の優先か、自然を守るべきか。ふるさとを守っていききたい。」「1年生で読んだ本の影響。海洋プラスチックの問題。できることを考えたい。」

中学生は、中学生ならではの人間関係の中から、自分を見つめ、考えを深めていました。「空気を読み、言いたいことを我慢する自分。空気を読むことを互いを理解するための力に。」「絵を描くことに没頭する自分。AIが普及するからこそ心と向き合い、表現していきたい。」「部長になった責任感から嘘をついた自分。コンクール結果から大切なものに気付くことができた。」「相手へのクレームや誹謗中傷、噂による思い込み。実際に相手を知ることが大切だ。」「英語をさらに学ぶために渡米し、体験からコミュニケーションへの考えを深めた。」「外国人に関する状況から、共に生活できる社会はどうしたらよいか。」

大人に近づく高校生は、自分の生き方を考えていることに感銘を受けました。「辛いことがあっても“大丈夫”と答えてしまう自分。自分を否定せずにいられる社会を。」「苦手な人の見方を減点でなく加点方式にすると笑顔になることが増えた。」「ダンスから、技術の他に人としての振る舞い方や心の在り方を学んだ。周りやSNSに振り回されず、内面を磨き自分の軸をもちたい。」「不登校の経験。高校選択、通信制高校への編入。友人からの言葉で価値観が変化し、前向きな生活に。」

小学生の主張の中に、「夢は子どもの気持ちに寄り添える学校の先生になること。理由は、これまで出会った先生の存在。」とありました。安心できる声をかけてくれた先生、相談を真剣に聞いて共に考えてくれた先生、大切なことを教えてくれた先生。先生の「人柄」が大きく影響を与えていました。様々な思いをもって生活する児童生徒がいる中で、教育に関わる者として、私たちの影響の大きさを改めて考えます。

高校生の主張の中に、「日々の生活、人との接し方、自分自身の心の持ちようのすべてがその人の表現として外側に滲み出る。」とありました。どんな仕事も、人柄だけではできないのかもしれませんが、毎日と一緒に過ごす中で、児童生徒への影響は少なくありません。我々も謙虚に自分を見つめ、内面を磨き、生き方を考えていきたいと感じた主張大会でした。

『主体的な保育』と『共主体的な保育』

土岐市幼稚園・こども園長会 会長 前田 宏香

今年度、こども園の土岐市保育研究会の研究テーマは『心や体の豊かさを育む保育～子どもの遊びからつながる保育～』としています。主体性を尊重する保育の実現には子どもの育ちや内面を理解することが大切で、子ども達が体験していることや子ども同士のやりとり、保育者との関わりなどを「子どもにとってどうなのか」という視点から捉えなおしてみることで、保育の現状や課題を把握し、改善・充実の手がかりを探る糸口が見えてきます。子どもの主体性を大切にしたい保育を実現していくには、子どもの遊びから幼児理解をすることで主体性がつかめてくるのではないかと研究保育を進めています。

子ども達の主体性とはどんな姿なのか、子ども一人一人が自分で遊びを選び、試行錯誤しながら考える姿で、保育者は子どもが「やってみたい」という気持ちを大切に支えていくことにあります。子どもの主体性を考える中で、玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授 大豆生田啓友先生が提唱する『共主体の保育』についても考えてみました。

子どもを「未熟だから教えられる存在」としてだけ捉えるのではなく、子どもは自ら考え、感じ、表現し、環境に働きかける主体であると考え、そのため、保育教諭は子どもに何かをさせる人ではなく、子どもの思いや願いを受け止め、一緒に考え、共に生活や遊びを創る存在として関わる大切だとされています。

【共主体的な保育の具体例】

子どもが泥遊びを始めたとき

一斉指導的な関わり

- ・「泥を投げてはいけません。」
- ・「今日はこれを作りましょう。」

共主体的な関わり

- ・「何を創ろうとしているの？」

- ・「この泥は、どんな感じがするの？」
- ・「もっと水を入れたらどうなるかな？」

保育教諭は子どもの興味や発想に寄り添い、一緒に探求します。

共主体的な保育教諭の姿

- ・子どもの声に耳を傾ける
- ・子どもの気持ちを理解しようとする
- ・子どもの発見に共感する
- ・正解を教えるより、一緒に考える
- ・子どもから学ぶ姿勢を持つ



共主体的な保育の目的は、子どもを思い通りに育てることではなく、子どもが自ら考え、選び、仲間と協力しながら生きていく力を育むことにあります。

主体的な保育が子ども一人ひとりの「やってみたい」を支える保育であり、共主体的な保育は、子ども、保育者、保護者が互いの思いや考えを尊重し合いながら、ともに学び育ちあう保育となります。子ども達が自分の考えを言いやすい環境を実現していくためには、一人一人が自分の思いや考えをもつ主体的な経験と共に、その思いを安心して表現し、受け止めてもらえる共主体的な関係作りが重要であり、保育者は子どもの声に耳を傾け、子ども同士が互いの考えを認め合える環境を整えることで、共主体的な学びを支えていくことになると思います。

子ども達にとってこれからの社会は『AIと共に働き、学ぶ社会』『変化が速い社会』『グローバルにつながる社会』『人口減少と高齢化が進む日本』『地球規模の課題に向き合う社会』と課題に向き合っていく世代となっていきます。子ども達に必要な力となる主体性を基盤として、共主体性へと広がる学びを、市の研究保育から、実践のあり方や目的まで深く考え突き詰めていくことで、子ども達にとってよりよい保育環境となっていくことと思っています。



夢・絆学校「肥田中学校」

肥田中学校長
土本 高夫

「あなたがしたいことは何なのか!」

この言葉は、かつて勤めた学校で校長先生から、何度も投げかけられた言葉です。

それ以来、この言葉をいつも自分に投げかけて自問自答するようになり、次第にわたしなりの“夢”が描けるようになりました。夢は羅針盤であり、挑み続けるエネルギーを生み出す源です。

わたしの夢は、縁あって勤める学校が、諸先輩が築き上げてきた学校のよさを大切にしながら“笑顔があふれ、瞳が輝く学校”になることです。そんな学校である本校の、校長の心(夢や願い)を通して見える風景を少し紹介します。

1 朝の登校(生徒)

校舎に向かう「たしかめ坂」直前、道路を横切するために生徒が立ち止まっていると地域の方は必ず停車してくれます。生徒たちは渡りきると振り返り、運転手に深々と頭を下げます。その姿に「心が洗われるようだ」と地域からお褒めの言葉をいただいています。

「たしかめ坂」碑(右)

に込められた願いは

「自分を高める」

「仲間を大切にする」

「命を大切する」

生徒は心の中で確めながら、毎日坂を上ります。

坂を上るとピロティがあり、生徒会活動の1つである空き缶とペットボトルキャップ集め、登校中に拾い集めたゴミの回収を生徒会執行部が行っています。社会に貢献する尊い姿です。

2 授業(生徒)

本校の生徒は学習課題に対してとても意欲的に取り組みます。特に仲間の考えをしっかりと聴く姿は素晴らしく、本校生徒のよさである“仲間を大切にする”心が表れています。さらに、よい教材と出会ったり課題意識がうまれたりしたときの瞳は、ワクワク感で輝いて素敵です。

目指す生徒は、主体的に仲間と追究し続け、自ら学びを創造する生徒です。自ら学びを創造するためには正しい自己理解、見通しと学び方が大切であると考え、今年度は自己評価や相互評価による学びの自覚化にも取り組んでいます。

3 昼休み(生徒、教職員)

昼休みは25分間。行事の準備や生徒会活動などで誰もが何かと忙しい時間です。そんな中でも校長室から見えるグラウンドでは、多くの生徒がサッカー、バレーボールで円陣パス、ある学級は長縄を学級レクのように取り組んでいます。担任の姿も時々あり、生徒たちはとても嬉しそうです。

今はサッカーワールドカップに触発されてか、異学年でサッカーをして楽しんでいます。

4 放課後(教職員)

本校は職員会がありません。運営委員会で決定したことを学年会で周知しています。それにより、学年会が主体的な運営組織となっています。昨年度までの年間6ステージを今年度は5ステージにしたこともあり、会議も少なくなりました。

校長机の目の前は職員室との出入口です。特に放課後になると、話の内容はわかりませんが、学年関係なく会話する声がたくさん聞こえてきます。笑い声もたくさん聞こえてきて、そんなときは嬉しさと感謝の気持ちでいっぱいになります。

教職員が互いに認め合い支え合いながら同僚性を高めていることが、生徒のよりよい仲間づくりにつながっていることは間違いありません。

本校の教育目標は「自己を見つめ 他を思いやる心」、学校像は「自主と貢献にあふれる学校」です。生徒と教職員には共通のスローガンがあり「自分から動く(自主)」「誰かのために(貢献)」「得意を生かして(一芸に秀づる)」です。さらにはよりよい仲間関係を築くために生徒会で決めた「肥田中学校人権宣言」があります。

特別なことはしていませんが、一つ一つの目標や活動の“つながり”、一人一人の“つながり(絆)”を大切にしながら、あたりまえのことを丁寧に取り組んでいます。その結果が5月の生徒アンケートで「学校が楽しい」「人の役に立ちたい」と回答したのがほぼ全員であったことにも表れています。課題は自己実現に挑み続ける姿です。

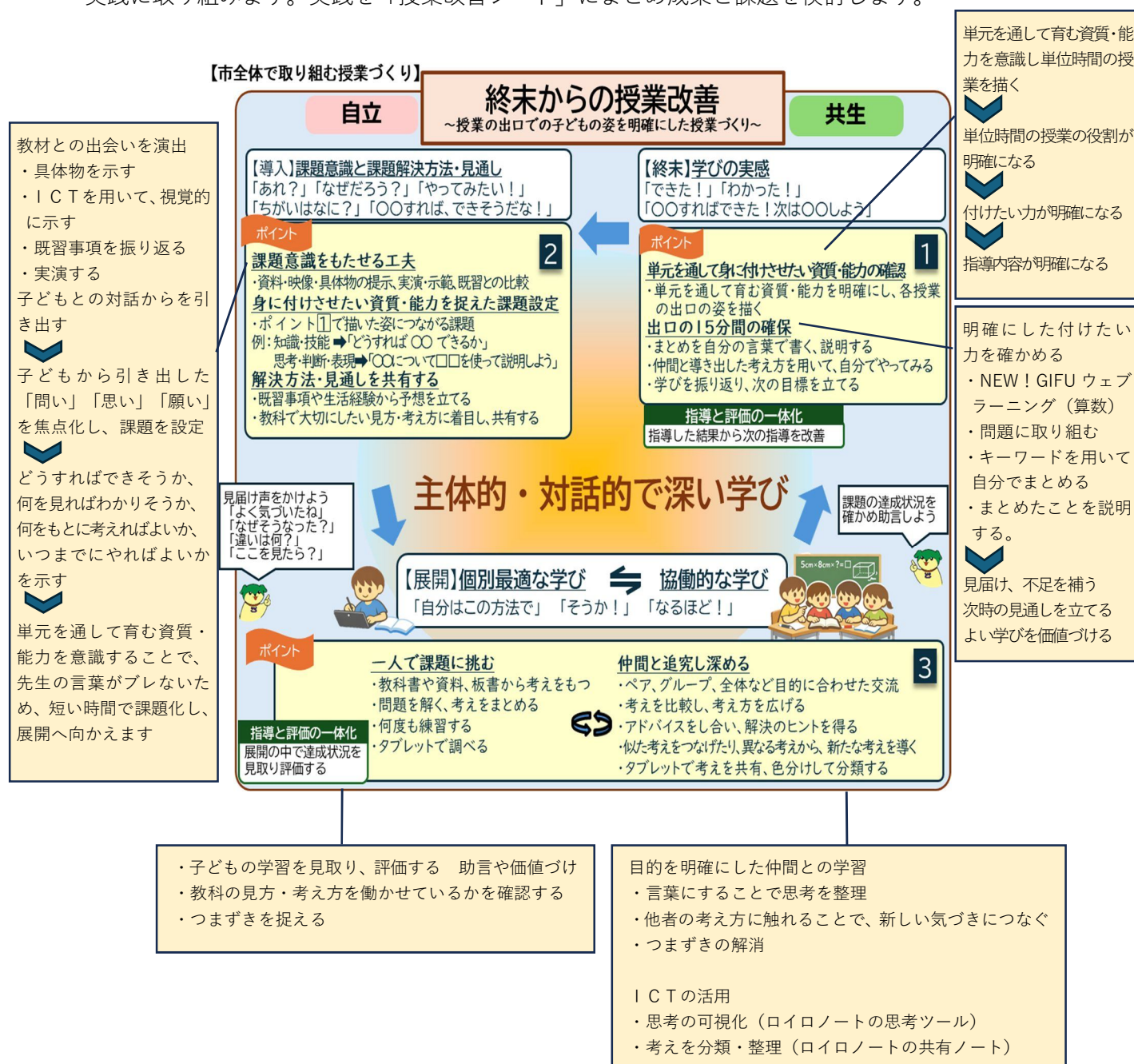
今後も生徒の「ひとり立ち」を目指すとともに、夢を問われたとき、すべての生徒と教職員が“笑顔と瞳を輝やかせ”て「〇〇です!」と語り、実現に向けて挑む“夢と絆の学校”を創っていきます。

令和 7 年度の振り返りから

- ・導入において、教師が児童生徒に対し情報を与えず、できるだけ短くすることで、児童生徒が課題を追究するために考える時間を確保する。
- ・深めの発問を吟味して、話し合いが焦点化されていくようにする。
- ・何がどのように深まったのかを児童生徒と共に振り返り、学びの自覚をより実感させる。

令和 8 年度 土岐市学力向上推進委員会の取組

「終末からの授業改善」～授業の出口で子どもの姿を明確にした授業づくり～ を意識した実践に取り組みます。実践を「授業改善シート」にまとめ成果と課題を検討します。



- ・ 子どもの学習を見取り、評価する 助言や価値づけ
- ・ 教科の見方・考え方を働かせているかを確認する
- ・ つまずきを捉える

目的を明確にした仲間との学習

- ・ 言葉にすることで思考を整理
- ・ 他者の考え方に触れることで、新しい気づきにつなぐ
- ・ つまずきの解消

ICTの活用

- ・ 思考の可視化（ロイロノートの思考ツール）
- ・ 考えを分類・整理（ロイロノートの共有ノート）

令和 8 年度 課題解決委員会の取組

運動好きな子どもの育成、体力の向上についての実践を研究し、各校に広めます

令和 8 年度 課題解決委員会メンバー

顧問校長	駄知中	清本 直子			
課題解決委員	土岐津小	馬場 悠輔	泉小	田中 仁人	
	西陵中	小栗 寛道	泉中	山越 葉奈	



令和 7 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果による土岐市の現状

- ・「運動が好き」、「体育が楽しい」の回答について、令和 6 年度と比較し男子児童生徒は上昇したが、女子児童生徒は減少した。
- ・総運動時間は、小学校女子は令和 6 年度と比較し増加したが、県の平均は下回った。
- ・実技に関する調査結果においては、体力合計得点は小・中学校ともに県の平均を下回った。



令和 7 年度課題解決委員会の取組

【成果】

- (1) 土岐市の課題の明確化
 - ・体感・瞬発力・脚力などの体力に関わる弱さ
 - ・体を動かした遊びや運動の時間の減少
 - ・卒業後の運動や体を動かした遊びに対する意欲の低下
- (2) リズムトレーニングの導入，学級遊び・全校遊びの推進の提案
 - ・プログラムの紹介

【課題】

- (1) 提案後の取組状況の把握や継続的な支援が十分ではない
- (2) 体力を高めることが子どもの自己肯定感や意欲の向上につながるという「価値」の共有が十分ではない

令和 8 年度の取組

【目標】 運動への関心を高め、体力を向上する実践をまとめ、発信する。

【取組】

小学校	運動機会の創出，全校や体育の授業での学年，種目による効果的な A C P の実践
中学校	運動機会の創出，体育の授業における男女共習での運動量の確保と意欲の向上に関する実践

【実践の発信】

- ・課題解決委員会での実践を，A C P 推進担当者研修会（6 月，9 月，2 月），サマーセミナー（7 月）で実際に活動しながら伝える。
- ・「教育とき」への掲載や，ロイロノートで動画共有する。
- ・実践記録としてまとめる。

初任者の先生紹介

フレッシュな風を吹かせて

今年度の初任者の先生は19名。
怒涛の3か月が過ぎてそろそろペースもつかめてきた頃でしょうか？

今年は、「最近、一番テンションが上がったこと」を聞いてみました。



土岐津小学校 安藤 香奈 先生

私の最近テンションが上がったことは、4時間目の授業中にお腹が空いていた時、給食のカレーの香りがしてきたことです。その日は配膳



もとても早く、クラスの子もたちがカレーを残さず美味しく食べられたこともうれしかったです。

妻木小学校 間宮 愛咲子 先生

学校の畑で植え、水やりをして育てていたキュウリやピーマン、ナスが収穫でき、子どもたちと「やったー！」と喜び合ったことです。「先生にも食べてほしい」と話してくれた子どもたちの優しさにも心が温まりました。

肥田小学校 田中 瞬矢 先生

5年生の宿泊学習で「中池自然の家」に行ってきました。キャンプファイヤーでは、児童が主体的に場を盛り上げる姿が見られ、その積極的な行動に4月からまだ2ヶ月ちょっとですが大きな成長を感じテンションが上がりました。



泉小学校 石川 百音 先生

6月に行われた初任者研修で大学の友人と久々に再会したことです。みんなお化粧が少し薄くなり、会話もすっかり「先生」らしくなっていて思わず笑ってしまいました。各地で奮闘する仲間の姿に刺激をもらい、私も負けずに頑張ります！

土岐津小学校 柴 このか 先生

生活科で植えたあさがおがだんだんと生長していることにテンションが上がっています。

毎朝子供たちと一緒に水やりをしており、最近はずがどんどん伸びてきました。子供たちと一緒にあさがおの成長を楽しみにしています。

下石小学校 村田 翔太郎 先生

最近、一番テンションが上がったことは、算数の授業をしている中で、子どもたちが真剣に課題に向き合い、問題に取り組む姿を引き出せる授業実践ができたことです。日々新しいものを取り入れながら、成長できればと思っています。よろしくお願いいたします

駄知小学校 加藤 沙彩 先生

モヤモヤした際、“自分”の気持ちは上手に話せる小3の子ども。少しずつ“相手”の気持ちも考えられるといいなあと考えていました。その数日後、別のモヤモヤ案件で「もしかしたら“相手”はこうだったかも」と。成長が早すぎる！と嬉しくなりました。

肥田小学校 藤本 康希 先生

最近一番テンションが上がったことは、国語の授業の時、自分が作った教材に対して子どもたちから「おもしろい」「これほしい」という声が上がったことです。その教材は試行錯誤して作ったので子どもたちからそう言われたときはテンションが上がりました。

泉小学校 三宅 基毅 先生

岡山県から岐阜県へ転任してきて、毎朝5時半に起き、6時からジムに通うことができるようになりました。

そのおかげで、ベンチ、スクワット、デットリフトの重量が伸びて、テンション爆上がりです。



泉小学校 近藤 愛唯 先生

5月末の私の誕生日に、子どもたちがサプライズでお祝いをしてくれました。手紙や折り紙のプレゼントに心が温まり、元気をもらっただけでなく、子どもたちとの距離がぐっと近づいたようにも感じた出来事でした。



泉西小学校 水野 駿 先生

あっという間の3か月間でしたが、毎日楽しく生活を送ることができています。最近の中で一番テンションが上がったことは、子ども達に調理実習で作ったサラダをふるまってもらったことです。突然、「先生のために作りました！」と言われた時にはうれしくてテンションが上がりました。



土岐津中学校 吉本 薫菜 先生

最近テンションが上がったことは、郡上研修に行ってジェラートを食べたことです。ジェラートの味はとても濃厚で美味しかったです。しかし、それ以上に生徒たちと過ごした時間が忘れられない思い出になりました。

土岐津中学校 橋本 晃平 先生

篠島研修で生徒と一緒に、広大な海をみて、名物であるシラス丼を味わえたことです。また、英語の授業後に「楽しくて50分があっという間だった」と言ってもらえたことがとても嬉しく、励みになっています。



西陵中学校 嶋崎 創太 先生

西陵中で行っているチージャン（大縄）で自分のクラスが初めて1回飛ぶことができました。何回も失敗して飛べたときにとってもテンションが上がりました。今も昼休みに練習しているので体育祭に向けて生徒と頑張りたいです。



濃南中学校 長江 紗和 先生

授業を受けもっていない子ども達からも「紗和先生！」と声をかけてもらえることです。授業だけではなく、日々の生活や行事での関わりを通して子ども達が興味津々に話しかけてくれる事に、信頼関係を少しずつ築いていることを実感し、思わずテンションが上がります。

駄知中学校 水野 皓太 先生

体育大会後、暑さ対策で配られたうちわに生徒同士がサインやひとことを書き合う中、私にも「先生も書いて」と声をかけてくれた生徒が2人いました。私も学級の一員として受け入れてくれていることを感じ、心が温くなりました。



肥田中学校 柴田 大輝 先生

先日行われた体育大会で担任をする学級が長縄競技で全校優勝をとれたことにテンションが上がりました！練習から学級全員で勝ちに向かうと真剣に取り組み、体育大会後に全員で喜んだり笑い合ったりして本気で熱くなれてとても嬉しかったです！

泉中学校 水上 永遠 先生

私が最近、テンションが上がったことは、体験学習の学年レクで、一緒に生徒と活動できたことです！生徒が一生懸命優勝に向かって仲間と協力している姿を見て、たった数か月ですが、大きな成長を感じました。これからも生徒の成長を間近で見られるのが楽しみです！

泉中学校 河合 源博 先生

最近、高校のインターハイ予選があり、自分がコーチとして指導していたチームが勝利するたびに子どもたちの成長を感じることができてとても嬉しくなりました。中学校で指導する生徒たちにも、「できた！わかった！」と実感させられるような指導方法を追究します。

お詫び：初任者の先生から写真をいただきましたが、紙面の都合でコメントのみになりました。お許しください。



2025年1月29日、長野の施設にいた母が、脳出血で病院に運ばれた。幸い意識が戻り、命はとりとめたが、動くことも食べることも、会話もできなくなってしまった。医者からは、延命治療をどうするか、判断を迫られた。別の施設に入っている父を連れて、面会に行った。母と父の間には、長い沈黙が続き、「言葉にならない言葉」があった。

突然のことに気持ちが追いつかないのは私も同じだったが、その沈黙を埋めるように、2人に話しかけた。面会后、父を施設に送る車中で、母の今後について尋ねた。父の心の奥にある思いを想像しながら話しかけ、父の顔く様子を横目で確認し、母の延命を決めた。

2025年2月14日朝、埼玉に住む妹から何度も着信があり、嫌な予感がした。父が施設で倒れ、運ばれて心肺蘇生を行っているという。長野に向かう高速道路に乗ってすぐ、息を引き取ったと連絡があった。母よりも先に父が逝くとは思ってもみなかった。父には、私の想像を超える悲しみと共に「言葉にできない言葉」があったのだろう。

父の葬儀を終え、母は病院から終末期ケアを行う施設に移った。私は、ほぼ毎週末、長野に向かった。母は会うたびに痩せ細り、眠っている時間が長くなり、反応が鈍くなっていった。見つめる目から「言葉にできない言葉」を感じつつ、私は、父が面会に来られない言い訳をした。

2025年4月22日母が息を引き取った。余命宣告よりも2カ月程長く、よく頑張った。

たった2カ月の間に、両親を亡くし、生きている間にもっと・・・と、未だに後悔ばかりだ。人には「言葉にならない言葉」と「言葉にできない言葉」があることを知った。だからこそ、思いを言葉にすることの大切さが身に染みた。

人には、沈黙や涙、ため息、表情など、言葉以外の形でしか現れない心の声がある。学校で児童の話を書くとき、保護者と面談をするとき、同僚の悩みを聞くとき、発せられる言葉と共に、「言葉にならない言葉」「言葉にできない言葉」を想像するようになったのは、両親のおかげかもしれない。

掲 示 板



●「夢の教室」の授業が今年度からまた再会しました。

濃南小学校に新体操、土岐津小にサッカー、泉西小にスノーボードの「夢先生」が来て、子どもたちとゲームを楽しんだ後、先生の話を書き残しました。

夢に向かう時に大切な、あきらめないこと、周りの人との関わり方、自分との向き合い方、などの話を聞いた後、子ども達は自分の「好き」「得意」「夢」を書く中で、自分理解を深めていけたようです。また、それを、堂々と仲間の前で話せる児童がいたことが大変印象的でした。

残りの学校は10月以降に実施されます。お楽しみに。

●「幼小小」の連携の取組、ありがとうございます。

先日、泉小学校で、泉幼稚園・泉こども園の先生方と小1の担任の先生方で、合同会議が開かれました。5時間目の授業参観の後、ざっくばらんに子ども達の様子や交流が熱心にされました。

どの校区でも取り組んでいただいているところですが、子ども理解が深まり、大事な情報共有の場だと感じました。また、互いの名前と顔がわかり、気軽に話せる関係が大事だなと思いました。

